

多発性硬化症の発症関連環境要因： 系統的レビュー根拠に基づく医学（EBM）: 社会医学実習

佐藤 友紀¹⁾ 稲村 有香¹⁾ 千田 友紀¹⁾
伊東 里紗¹⁾ 大野 麻紀¹⁾ 三股奈津子¹⁾
平井 貴彦¹⁾ 成田 央良¹⁾ 矢野 竜大¹⁾
丸山 隼一¹⁾ 岡田 淳子¹⁾ 田中 景子²⁾
三宅 吉博²⁾

¹⁾福岡大学医学部3年生

²⁾福岡大学医学部公衆衛生学

要旨：今回我々は、社会医学実習の一環として、根拠に基づく医学の実際を学んだ。対象疾患として多発性硬化症（MS）をとりあげ、発症関連環境要因に関するエビデンスをまとめた。科学論文検索システムである PubMed を活用し、環境要因と MS との関連に関する疫学論文を検索した。最新のものから 2000年までさかのぼって、合計66編の原著論文を収集した。環境要因として、身体状態、生活習慣、既往歴、家族歴、服薬状況、予防接種、職業曝露など、様々な要因について検討されていた。しかしながら、統計学的に有意な関連を示した要因は少なく、関連がみられないと報告された要因が多かった。今回検討した論文に日本人を対象とした研究は存在しなかった。欧米人を対象とした研究結果がそのまま日本人にも当てはまるかは定かではない。日本人の MS 発症の環境要因を検討するためには、今後、日本人におけるエビデンスの蓄積が重要になるであろう。

キーワード：環境要因，系統的レビュー，多発性硬化症，根拠に基づく予防医学